

京極読書新聞 <第64号>

発行日 平成26年1月15日(木)
京極町生涯学習センター湧学館

「山麓文学館」の定着 ～今年度の読書会を振り返って～

新谷 保人（湧学館司書）

早いもので、「後志の文学」講座を立ち上げてから六年の歳月が流れています。その中で、ある年は「後志の文学読書会」、ある年は「峯崎ひさみ読書会」…というように、毎年視点を少しずつ変化させては読書を続けてきたのですが、三年前の「京極文学館」シリーズをきっかけに、なにか自分たちがやりたいスタイルがおぼろげながらも見えてきたような気がしました。私たちはなぜこの京極の地において、何を知りたい、読みたいのだろう…ということが少しは明瞭になってきたのです。その到達点こそが昨年度から始まった「山麓文学館」シリーズではないかと思えます。

「山麓文学館」の名には私たちのいろいろな思いが込められています。私たちが読みたいのは「山麓文学」なのだ…という思い。私たちが望む「文学館」とは、冷たいガラスケースに入った稀覯本や初版本じゃない。自分の指で自由にページをめくることができる本なのだ…、感動したらぎゅっと抱きしめられる本なのだ…という思い。



▲ 使用したテキスト等は館内で閲覧できます



京極読書新聞は
毎月1日発行予定です。

平成27年の年明け、1月17日（土）と2月14日（土）、倶知安風土館にて「倶知安と文学」の2回講演を行います。内容は、この六年間読書会で読んできた作品群を「倶知安」という切り口で再編成してみるものなのですが、ここでの総合タイトルにも「山麓文学館」の名を使いました。来年度以降、こういう「出前読書会」とでもいうべき試みにも積極的に取り組んでみたい。そしてその時、もちろん、合言葉は「山麓文学館」。

平成26年度「山麓文学館2」読書会

- 5/16(金) 読書室にて
松浦武四郎著/丸山道子訳「後方羊蹄日誌」
- 6/13(金) 視聴覚ホールにて
畔柳二美「姉妹」
- 7/11(金) 読書室にて
「林芙美子… 北方への旅」
- 8/ 8(金) 読書室にて
林芙美子「田園日記」
- 9/12(金) 読書室にて
鈴木實「近代農業の先駆け 鈴木重慶伝」
- 10/11(土)
胆振国虻田をたずねるバスの旅

予告

湧学館でいちばん大きい本？
今年度の製本教室でつくります。



詳細は、湧学館掲示・広報等でお知らせします。

『平家物語』京都史蹟巡り②

『平家物語』を読む会 構成・文：村山功一／写真・解説：小原彦也

3. 三条・岡崎・東山方面

大原の里を後にして、「善勝寺」跡・「金仙院」跡を探索。その途中、三条京阪駅近くにある「山吹の墓」に立ち寄りました。

◆山吹の墓

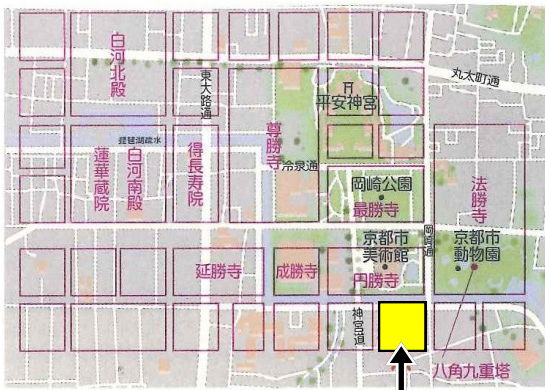
『平家』には〈木曾殿は信濃より巴・山吹とて、二人の便女(びんじょ)を具せらせたり〉とある。便女は平時には食事に関する仕事をし、合戦の際には郎党として従った女性らしい。巴は義仲が最期を遂げる直前まで一緒に戦っているが、山吹は病気のため都に留まったという。

その墓があるという有済小学校を尋ねたが、現在は京都市教育委員会の建物になっており、土曜のこの日は閉館。平日であれば自由に見学できるとのこと、またいつか訪れることにした。

◆善勝寺跡

角田氏は、女院が寂光院を出て遷られたのは通説とされる「法勝(性)寺」ではなく、その近くにある「善勝寺」としている。

この寺は女院の妹を正室とする藤原隆房(四条家)の氏寺であった。小督(こごう)とのロマンスでも有名な隆房は、後白河院の近臣ながら一貫して“親平家”の立場を貫いた人物。隆房夫妻は壇の浦から生還した女院を、陰に陽にお世話したという。こうした関係や様々な史料を検討し、善勝寺を最有力と主張する。



三条通りを進むと岡崎地区となる。善勝寺は現在の京都動物園付近にあったとされるが、ついに分からなかった。ところが、京都国際交流センターで買った「京都・岡崎年代史」にその場所が載っていた。今日歩き回ったその辺りに、平安時代たしかに善勝寺は建っていたのである。



こんせんいん

◆金仙院

さらに角田氏は、善勝寺が近所の火災の類焼で焼失すると、女院は鷲尾(東山区)にある金仙院に遷られたという。金仙院は現在では“ねねの寺”として有名な高台寺<写真①>の辺りにあったとされる。

高台寺が建てられる以前、この一帯には雲居(うんご)寺という壮大な寺院が建っていた。ここもまた四条家と縁の深い寺院で、その境内の一角に四条家の別荘兼寺院として建てられたのが金仙院である。『平家』の諸本の「延慶本」や「四部合戦状本」には、女院は鷲尾で入寂された、あるいは遺骨は鷲尾というところに埋葬されたと書かれている。四条家代々の墓地もこの鷲尾にあるという。以上のことから角田氏は、女院が最期を遂げられた場所を金仙院と比定している。

※入寂…高僧などが亡くなること。



◆法観寺

高台寺から荘厳な靈山観音<写真②>を望見しつつ法観寺に向かいます。5月の“旅”の時は閉館中で見るができなかった“義仲の首塚”を見るためです。今回はしっかりと見てきました。

*木曾義仲の首塚<写真③④>

朝敵として討ち取られた義仲の首は、梟首ののち捨てられたという。その首を供養した塚。現在は法観寺の境内にある。それほど大きくない自然石の塚と小さな五輪塔は、荒々しい義仲のイメージと異なり、静かで穏やかに感じられた。新しい花が供えられていたのが印象的だった。

きょうしゆ

※梟首…処刑された罪人の首を木につるしてみせしめにする。獄門。



③



⑤

◆四天王寺（大阪）

小原さんの地元、大阪四天王寺にも義経伝説がありました。

*義経鎧掛けの松<写真⑥>

滞在中の親戚の家が四天王寺のすぐ近くにあり、同寺の境内で見つけたのがこの松。

兄頼朝の追討を逃れ西国で再起を図ろうとした義経一行は、摂津の大物浦(だいもつのうら・現兵庫県尼崎市)から船出する。しかし、大嵐に遭わずに主従4人が天王寺付近に漂着したという。鎧掛けの松はこの伝承によるものと思われる。

今回、寂光院～善勝寺跡～金仙院の故地と女院の足跡を辿る旅により、新たに貴重な情報の提供を得て、さらに『平家』への認識を深めることができました。同時に今後一層研鑽を重ねるべき課題もまた、生まれてきたように思います。



④

*本稿は11/7の定例会で多数の写真とともに、小原さんに解説していただいたお話をもとに構成したものです。(京極読書新聞第63号からの続きです。)

『平家』を身近に感じた一年

～今年度の読書会を振り返って～

『平家物語』を読む会 村山功一

今年一年を振り返って特記すべきは、五月の京都史蹟めぐりです。開講以来の懸案であったこの小旅行を実施したことは、私たちの会にとって一つの節目になりえたと思います。もちろんそれは単なる“千年の都”への憧ればかりではなく、『平家』世界をより身近に体感することでした。ゆかりの史蹟をめぐり、多くの人に出会うことにより、その目的は十分に達せられたと思っています。

京都での会食の折、源氏の武将佐々木盛綱の末裔（まつえい）である下村正美さんから盛綱にまつわるエピソードを直接伺う機会を得たことは、何よりも貴重な体験でした。私たちの京極町の礎（いしずえ）を築いた京極高德子爵（ししゃく）が、氏信以降京極を名乗る近江源氏佐々木氏嫡流（ちゃくりゅう）であるということは、当然



H26.9.5 黒滝レポート

ながら下村さんと先祖を同じくすることになります。こうした系譜を眺めてみると、はるか大昔の物語と思っていた『平家』が、時空を超えて私たちの眼前に近づいたように感じられます。

遡れば近江源氏へとつながるここ京極町で、「平家」の勉強を続けていることも“多生（たしょう）の縁”かも知れません。

というわけで、来年も頑張ります。よろしくお願いいたします。

平成26年度 年間進行状況

*は連休等に伴う日程変更 ○は行事等

平成26年

- 4/ 4(金)[巻八]「征夷將軍院宣」
- 4/18(金)[巻八]「猫間」
- * 5/ 9(金)[巻八]「水島合戦」～「瀬尾最期」前半
- ⊙ 5/23(金)《『平家』史蹟を巡る京都の旅》報告会
- 6/ 6(金)[巻八]「瀬尾最期」後半
- 6/20(金)[巻八]「瀬尾最期」まとめ～「室山合戦」
- 7/ 4(金)[巻八]「鼓判官」前半
- 7/18(金)[巻八]「鼓判官」後半
- 8/ 1(金)[巻八]「法住寺合戦」
- * 8/22(金)[巻九]「生(いけ)ずきの沙汰」
- 9/ 5(金) “黒滝レポート”
- 「摂関期～院政期の文化と文学…隴谷寿氏講演」をもとに
- 9/19(金)[巻九]「宇治川先陣」～「河原合戦」前半

10/ 3(金)[巻九]「河原合戦」後半～「木曾最期」前半

10/17(金)[巻九]「木曾最期」後半

○11/ 7(金) 会員小原彦也さんによる“京都史蹟巡り”報告会

11/21(金)[巻九]「木曾最期」まとめ

12/ 5(金)[巻九]「樋口被討罰(ひぐちのきられ)」前半

12/19(金)[巻九]「樋口被討罰」後半

平成27年(予定)

1/ 9(金)[巻九]「六ヶ度軍(ろくかどのいくさ)」前半

1/23(金)[巻九]「六ヶ度軍」後半

2/ 6(金)[巻九]「三草勢揃」

2/20(金)[巻九]「三草合戦」

3/ 6(金)[巻九]「老馬」

3/20(金)[巻九]「一二之懸」前半

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

